



北海道

さっぽろ若者サポートステーション

高卒者と「つながり続ける」最後のサポステ授業

サポステ基本情報

運営団体名 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
 スタッフ数 常勤 8人 非常勤 9人

取り組みのポイント

① 取り組みのねらい・ポイント

5年ほど前から、「あまり深く考えずに就職試験を受けたら、受かってしまった」「採用は決まったけど働ける自信がないので辞退したい」「おかげさまで〇〇さん（面談で全く会話ができなかった生徒）も合格しました」といった声が高校生や先生から聞くようになった。

さっぽろサポステでは、主に定時制や通信制の中途退学者や就職を希望する進路未決定卒業者（予定を含む）を対象に、「伝える」…情報提供や講話、「つながる」…学内面談、「つながり続ける」…サポステにおける相談支援等各種支援プログラムの提供の3つを柱に実施してきた。しかし、就職決定の裏に隠された“早期離職の可能性”というリスクに対するアプローチを欠いていることに気づいた。そこで本稿では、中途退学者等はもとより新規高卒就職決定者にも「つながり続ける」ためのアプローチを広げるべき4つの背景と、さっぽろサポステにおける新たな取り組み、そして今後の可能性について記述する。

背景① 就職内定率が高い数値で推移している。

北海道における令和3年3月新規高等学校卒業者の就職内定率は98.2%（R3.4.2北海道労働局発表）。

背景② 就職者の1～3年以内の各離職率について、北海道はいずれも全国平均に比べて高い。

1 新規高卒就職者の離職状況

令和2年11月18日
北海道労働局ホームページに掲載

①過去3年間の離職状況

卒業年月	区分	卒業時から令和2年3月までの間における離職率 (%)			在職期間別離職率 (%)								
		計	男	女	1年目			2年目			3年目		
					計	男	女	計	男	女	計	男	女
29年3月	全国	39.5	34.5	46.8	17.2	14.8	20.6	12.3	10.9	14.5	10.0	8.8	11.7
	北海道	44.6	40.5	49.0	21.4	19.9	23.1	13.3	12.1	14.8	9.8	8.5	11.2
30年3月	全国	28.7	25.0	34.3	16.9	14.5	20.4	11.8	10.4	13.9			
	北海道	34.5	32.7	36.7	21.8	20.9	23.1	12.7	11.8	13.6			
31年3月	全国	16.2	13.9	19.6	16.2	13.9	19.6						
	北海道	19.0	17.2	21.1	19.0	17.2	21.1						

3年以内の離職率は44.6%である。また1年以内の離職率も約20%と高い水準にある。

背景③ さっぽろサポステ（自治体事業である札幌市若者支援総合センター「若者の自立支援事業」含む）利用登録者のうち就労経験者の占める割合が高い。

就労経験者61.8%で、就労未経験者を上回る（H18.9～R3.9）。相談者からは、前職での人間関係のつまづきや業務での失敗がネックとなり、再就職先で同じ経験をしたくないという主訴も多く、支援が長期化する要因が潜んでいる。

背景④ ひきこもり状態になる開始年齢は高校卒業から5年以内が多い。

広義のひきこもり群について、39歳までの若者のうち15歳から24歳までが6割を占める（平成27年度子ども若者白書）。

② 取り組みの具体的な内容・方法・効果

「就職決定者へ最後のサポステ授業」と題して、各支援機関の情報ならびにサポステに関連する自治体事業を紹介するための授業を開始した。具体的な内容は以下のスライドの通り（一部抜粋）。

就職後(社会)の荒波で難破しないために救助船の種類・内容を知っておこう！

- 若者支援機関
- 心の相談機関
- 就労支援機関
- 生活困窮相談機関 助け舟

1. 若者支援機関の助け舟が教える困難

- 職場と家を往復するだけの生活が辛い
- 趣味や学びを増やしたい
- 仕事が上手くいかない、職場に馴染めない
- 友人、家族関係に悩んでいる
- どこに何を相談してよいかわからない

2. 心の相談機関の助け舟が教える困難

- 眠れない日が続くようになってきた
- 職場に行こうとすると動悸がする
- 食欲がない(美味しいと思えない)
- 生きる気力が低くなってきた 何もしたくない
- 病院に行くべきか迷っている

3. 就労相談機関の助け舟

まとめ：難破すること前提ではありません

ポイント
 実は、残りの学生生活（3月末まで）が大事！

- 生活リズムを崩さない
- 人間関係のプラクをくつらさない
- 心身のメンテナンスをしておく
- 必要な資格を考える
- 会社に出勤時間に行ってみる
- 正解があるものをおさらいしておく
- 自分の卒業を祝う
- 既に合格した企業の一員だと意識する
- 仕事に必要なものを揃える(資金必要)
- バイト先とお別れは丁寧に
- 助け舟の見学をしてみる など

③ 実施上の留意点

スライド内の記載にもある通り、生徒に対して離職する可能性が高いことを突き付けたり、不安を煽ったりする時間ではない。就職後のすべての人にとって有益な情報として伝え、困難な状況に陥る前に冷静な対処ができるようになるために、在学中に伝えられるサポステからの最後のメッセージ（授業）であることを印象づける必要がある。

取り組みの成果と今後の課題

3年前に1校から始めたこの授業は、現在4校にまで広がり、また、いずれの学校からも継続的な依頼を受けている。授業終了後に「就労が不安なので今後（サポステに）行くかもしれません」「卒業後も相談できる場所を知れて良かった」「生徒だけではなく、先生の理解も深まった」等の感想をいただき、就職決定者が抱える“早期離職の可能性”というリスクに対して、正確にサポステの役割が刺さっている、また、このタイミングだからこそ生徒や先生に刺さることを知った。

サポステが中途退学者や進路未決定卒業者への支援がメインであるべきことは明白であるが、1校につき1時間、この「最後のサポステ授業」があってもよいのではないかと各所に提案したい。

今後は、コロナ禍における新たなリスクを想定し、ひきこもり支援機関や精神保健福祉機関、生活困窮者自立支援機関等の支援者と合同で実施するなど、学校を離れる生徒に多くの人や選択肢が集まる、まさにステーションとしての機能を発揮していく。